



お米の収穫の過程。カラダが喜び農作物で、丈夫な体をつくりつつ、この国の生産基盤づくりに貢献したいですね

OSJの活動は、大事

OSJの活動は、大事

Information box for Organic Spread Japan, including address and QR code.

オーガニックが広まれば みんなが笑顔に!

異常気象や紛争などの影響で食料が不足する事態に備える法律、「食料供給困難事態対策法」が施行されるのをご存知ですか?

より離農者が年々増加し、農地の荒廃が進んでおり、獣害が拡大しています。

行政への働きかけの甲斐もあり、現在、中濃農林事務所農業普及課が中核となり、有機農業に関わる生産者のネットワークづくりが進行中。

物の魅力を伝えたい考えです。「慣行農業は現代の日本人の食生活に欠かせない存在であり、とても大事な役割を担っていることは理解しています。」

地域の農業を盛り上げる、果てなき仕掛け人の情熱

巻頭特集

関市をオーガニック 日本一の地域に!!



農業をテーマに地域を描くNPO法人「オーガニックスプレッドジャパン」

私たちにとても身近な農作物。

野菜や米など、日々の食卓を彩る食材は言うまでもなく重要です。

そこで今回は、富野地区神野で有機農業に取り組み、農家を増やす活動を続けてきた木戸脇大樹さんを訪問。

その情熱を伺うと、未来の礎となる食、

そして農業の大切さが、改めて感じられました。



NPO法人 オーガニックスプレッドジャパン(OSJ) 神野オーガニック農豊 代表 木戸脇 大樹さん

各務原市生まれ。若くして食の大切さに気づき、有機農業を広めるために奔走してきました。

くも、想いは通じず、木戸脇さんは有機農業への参入のハードルの高さを感じます。

立ち上げました。食と農を大切にしたいという、純然たる気持ちから始まった、体験農業を行なう「耕し隊」、そして食と農に関する情報発信を担う「広め隊」。



関市が誇るみのにしきは、ハツシモを親系統にもつ粒の大きな品種。生産量こそ少ないものの、「味わいが濃いのです!」と木戸脇さんはおすすしめします



オーガニックの真骨頂を、「微生物を中心とする有機物の循環。土の中の微生物たちがどうしたら元気になって、活性化するかを考えることが大事。」だという木戸脇さん。

農業の裾野を広げる 若き農家の目覚め 希少な地元産米「みのにしき」を化学肥料不使用栽培で生産する農家という生業の傍ら、NPO法人オーガニックスプレッドジャパン理事長として活動してきた木戸脇大樹さん。

その野菜を自分でつくれたら...という漠然とした想いを抱いていました。そして、「生産者も消費者も人体に害があるとわかっている農業をなぜ使い続けるのか?」

そこで、感じたのは農業で生活するには大きな資金が必要ということでした。木戸脇さんは出稼ぎのため東京へ。ずっと会う人会う人に「日本の農業を変えたい」と言い続けて6年。東京でできた友人から「日本の第一人者の野々川尚さんと会ったが一度話を聞いてみないか?」と声を掛けられお会いすることに。